

研究課題

甲状腺癌におけるゲノム・遺伝子解析

1. 研究の対象

2010年3月～2020年3月に東京大学医学部附属病院で甲状腺癌手術を受けられた方

2. 研究目的・方法

甲状腺はいわゆるのどぼとけと呼ばれる甲状軟骨の直下にある重さ 10～20g 程度の臓器です。甲状腺は全身の新陳代謝や成長の促進に重要な甲状腺ホルモンを分泌しています。甲状腺に発生する悪性腫瘍が甲状腺癌であり、本邦では毎年 10 万人あたり 10 人前後の割合で発症するとされています(2012 年の統計)。甲状腺癌は 40～50 歳以上の女性に発症しやすいことが知られており、高齢化社会に伴い増加傾向にあります。その発症あるいは悪性化に関連する遺伝子を同定し、その意義を解明することは、甲状腺癌制圧のため重要な課題です。本研究では、甲状腺癌組織及び非腫瘍部について、マイクロアレイを用いた甲状腺腫瘍に特異的に変化する遺伝子の同定を目的とし、発現変化機構の解析として DNA メチル化異常などのエピジェネティクス解析、ゲノムコピー数解析、一塩基多型情報を用いた対立遺伝子座欠失解析などを統合的に行います。甲状腺癌、非腫瘍性甲状腺組織における遺伝子発現、局在、動態を明らかにし、治療効果、予後を含めた臨床病理学的指標との関連性について検討することで、甲状腺癌の診断・治療に応用可能な分子標的を見出すことが目的です。

本研究では東京大学医学部附属病院において外科的に摘出された甲状腺癌手術検体 100 例を対象とします。腫瘍及び非腫瘍部を病理診断に支障の無い量だけ凍結検体を採取します。免疫組織化学的な染色については、通常の病理診断が終了した後のパラフィンブロックを用います。被験者が未成年、あるいは成年でも十分な判断力の無い場合や意識のない場合は研究対象から除きます。これらの解析を東京大学先端科学技術研究センター、東京大学医学部附属病院乳腺内分泌外科および千葉大学大学院医学研究院分子腫瘍学において共同研究します。研究期間は平成 27 年 5 月から平成 32 年 3 月 31 日までとします。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料: 甲状腺の腫瘍部分と、腫瘍背景の非腫瘍性甲状腺部分、末梢血

情報: 個人情報を含む情報を保護するため、試料等は「倫理指針」に定められた方法にしたがって、個人情報管理者あるいは分担者により匿名化されたのち遺伝子解析に用います。具体的には個人の氏名やカルテ番号などがわからないように、すべての試料等を番号化したのち遺伝子解析に用います。

4. 外部への試料・情報の提供

個人情報の管理には、他のコンピューターと連結されていないコンピューターを用いることとし、

その情報は外部記憶装置に保存して、個人情報分担管理者がその保管場所に厳重に保管するものとします。個人情報管理には千葉大学医学部附属病院と千葉大学大学院医学研究院の各責任者がその任にあたるものとします。

5. 研究組織

総責任者:

東京大学医学部附属病院胃食道外科・乳腺内分泌外科 教授 瀬戸泰之

千葉大グループ責任者:

千葉大学大学院医学研究院分子腫瘍学 教授 金田篤志

他の共同研究グループ:

東京大学先端科学技術研究センターゲノムサイエンス分野 教授 油谷浩幸

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

〒260-8670 千葉市中央区亥鼻 1-8-1 電話 043-226-2039 (講座受付)

千葉大学大学院医学研究院分子腫瘍学 教授 金田篤志(研究責任者)

研究代表者:

東京大学医学部附属病院胃食道外科・乳腺内分泌外科 教授 瀬戸泰之